加世田耕地等

農技連等川辺ブロック活動

大浦干拓に松苗270本

県加世田耕地事務所らは1月29日、川辺郡大浦町の大浦潟干拓で16年度農村技術連盟・同事業連盟共催川辺ブロック活動と称したボランティア活動を実施した。

これは、同干拓地が生産者の高齢化等により維持活動が困難な状態にあることなどから、県加世田耕地事務所をはじめ、県土地改良事業団体連合会、川辺地域市町村耕地関係課職員、農村振興事業連盟加世田支部、同干拓改良区及賛同者などが参加し実施。今回は、㈱ローソンが進める緑の募金活動より集められた収益金で購入した松の苗270本が緑化維持活動のために植樹された。

作業前に写真に納まる参加者ら＝大浦町の現地で

冒頭、田ノ上春雄県加世田耕地事務所長が「日本全国を見渡しても、農作放棄の無いところはこの大浦干拓ぐらいではないかと思う。この自然と気候風土に恵まれた地域を後世に伝え残していくためにも、今日の作業をけがや事故の無い有意義なものとしてもらいたい」と挨拶。また、大浦潟干拓第二土地改良区の窪修一理事長と、㈱ローソン加世田市本町店の有山順一オーナーから「われわれ、生産者にとって台風などの自然災害や害虫による被害はとても深刻な問題であります。今日の松苗植樹が、これからの将来、より良い干拓地域の発展につながるものとなることを祈念したい」、「今回の活動が全国で233カ所目の緑化支援事業となり、本県でも8回目のお手伝いとなりました。今後も全国8000店のローソンで緑の募金や社会貢献活動を通じ街のホット・ステーションの実現を目指してまいります」とそれぞれ挨拶。続いて、参加者は3班分かれて作業に取り掛かった。

作業は、同干拓地区の左右端堤防部に群生する雑草の除草清掃作業を中心に進める2、3班と、双子島排水機場周辺に松の苗木を植樹する1班に分かれて実施。田ノ上所長らを中心に編成される1班は、各自が持参したくわやスコップなどを使って、係員より指示された通りに土を掘った後、愛情を込めながら素手で丁寧に植樹。昼前までには作業を終えた。

加世田土木等

地域児童らと共同で

川辺道路 メダカ等を救出

県加世田土木事務所、川辺道路工事安全協議会（大坪稔明会長）らは1月30日、川辺郡川辺町神殿地区の川辺道路整備区間内で㈶県環境技術協会、神殿小学校、川辺高等学校の児童・生徒ら約30人とともに、メダカやホタルなど水生生物の救出作戦を実施した。

同整備区間は自然が豊かで、絶滅が危惧される水生生物が多くすむ地域。地域児童・生徒らを中心とした「川辺道路メダカ・ホタル救出隊」を昨年12月22日に結成。今回、発注者・施工者らが、全面的にサポートし救出作戦が実施された。

冒頭、濵田行弘県加世田土木事務所長が「当土木事務所では、自然環境の保護と地域づくりの両立を目指すべく、当事業でも道路整備と合同で持続に努めております。その間、皆さんにはメダカたちの里親となって飼育をお願いします」と挨拶。次いで、㈶県環境技術協会環境衛生生物課の稲留陽尉氏が救出作戦の実施要領を説明した。

引き続き、参加者は上里ため池まで移動。5班に分かれて水生生物の捕獲に入った。水辺には、黒メダカをはじめ、しじみ、南沼えび、どじょうなどが見受けられ、採集用の網を手にした子供たちに混じって、県職員や安全協議会のメンバーらも真心に振って、メダカ殿川へと移動し、メダカを除く水中生物を放流。救出作戦を終え、県立川辺高等学校の西元辰広校長は「身近に自然と触れ合える場所があるのは幸せなこと。この素晴らしい自然を守るために、土木事務所や施工業者の皆さんも一生懸命に頑張ってくれるので、皆さんなりに地域の自然を大切にしていただきたい」と講評。最後に大坪会長が「高校生や小学生の皆さんとともに、地域の自然保護活動に参加して、このように有意義な時間を過ごせたことをとてもうれしく思います。この記念すべき日を1・30救出作戦の日と命名し、これからも地域住民の皆さんに親しまれ必要とされる建設業を目指して頑張っていきたい」と締めくくった。

なお、今回捕獲したメダカは、川辺高等学校で1年

動を行った参加者ら＝川辺町の現地で

炭酸カルシウム製造用

「竪形粉砕機」竣工式

九州初の施設完成祝う

三友

㈱三友（米盛司郎社長）は1月29日、鹿児島市谷山港の同社敷地内で石灰石などを微粉末（炭酸カルシウム）にする「竪形粉砕機」竣工式を行い、関係者約20人が出席して新たな施設の完成を祝った。炭酸カルシウムを製造する同タイプの機械導入としては九州で初。

竣工式終了後、写真に納まる関係者ら＝鹿児島市の同社で

竣工式では、同社の江夏弘康会長、米盛社長をはじめ、関係者が玉ぐしを捧げ、安全を祈願。引き続き行われた点火式では、江夏会長が始動スイッチを押し機械を稼働させ竣工を祝った。

同社は、今後さらに高まると予想される炭酸カルシウムなどの粉体需要に対し、既存の破砕機（1、2号機）の生産能力、設備能力では対応できないことから、㈱アーステクニカ社製の「KVM MILL（竪形ローラーミル）」を3号機として新たに導入した。処理能力は1時間当たり4～5㌧。投資額は1億8000万円（本体は1億円）。なお製造された粉体は、道路工事の舗装材や家畜飼料に混ぜて使用される。

江夏会長は「今後は舗装材等以外にも、幅広い分野で生かせるようにしていきたい」と語った。

ヨイコムに新分野事例80件を追加

建設業振興基金

建設業振興基金は、同財団のホームページ「ヨイケンセッドットコム」に、「中小・中堅建設業の新分野進出事例」80件を追加した。

テーマ別の内訳は、リフォーム・リニューアル分野が11件、環境分野が31件、農林水産業分野が3件、福祉分野が6件など。業種別では、総合建設業が64件、専門工事業が15件となっている。

基金では、14年度から新分野進出事例の収集を始めており、これまでに252事例をホームページ上で公開していた。今回追加した事例のうち、8件については14年度調査をフォローアップしたもの。残り72件が16年度に新たに収集した事例となっている。

大龍小卒業生を救う会

増元さんら救出へ寄付

北朝鮮に拉致された増元るみ子さんの救出活動に役立ててーと、るみ子さんの出身小学校の同窓

ャパン社長）は1月29日、姶良郡姶良町西姶良の増元さん宅を訪れ、母親の信子さんに街頭活動で集めた募金の一部5万円を手渡した。

同募金は、9日に假屋会長をはじめ、中学校の救う会や鹿児島女子高等学校の同窓会のメンバーら4人が、鹿児島市の山形屋デパート前で街頭活動を行い集められたもの。

同日は、「卒業生救う会」のメンバー5人が訪問し、募金を贈呈。これを受け信子さんは「大変ありがたい。皆さんの善意に感謝いたします。元気な姿で帰って来ると信じています」と感謝の意を述べた。

假屋会長は「拉致被害者救出活動のすそ野を広げ、多くの人に関心を持ってもらえるよう、今後も積極的に活動していきたい」と話した。

このあと一行は、曽於郡輝北町の市川修一さん宅も訪れ、募金を贈呈した。

“真心とほほ笑みと”をモットーに心より御奉仕致します。
南日本家具工芸株式会社
婚礼家具，造作家具，増改築，ジュータン
カーテン，他，家具総合卸
鹿児島市東開町13－30
TEL (099)269-7111
FAX (099)268-0385